



深田久弥

山の文化館だより

平成29年
夏号

深田久弥 山の文化館
〒九二一〇〇六七
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL (0762) 721-3311
FAX (0762) 721-1181

語りかける花たち

吉村 由美子

去る四月二十三日（日）第二十一回
久弥祭が行われた。今年の久弥祭は、
まったく趣を変え、深田久弥が初めて
登った山、富士写ヶ岳を望む九谷ダム
横の広場を会場に執り行われた。富士
写ヶ岳に向かって作られた祭壇で、例
年のごとく献花、献酒、はつしほ俳句
会による献句、久弥作品の朗読が行わ
れた。最後に深田久弥の訳詩がもとと
なっている「もしか或る日」（注）を参
加者全員で合唱した。晴天にも恵まれ、
約七十名の参加を得、厳かに行うこと
が出来た。

また今年は、石川県勤労者山岳連盟、
日本山岳会石川支部、山中山岳会、加
賀山岳会、加賀ハイキングクラブとの
共催で行われた。これらの団体は、昨
年山の日の記念事業として取り組んだ
富士写ヶ岳山頂方位盤新設事業で協力
してきた団体である。
式典終了後、参加者は五彩尾根より富
士写ヶ岳に向かった。

（注）一般的には「いつかある日」と歌われているが、
原詩の意味から見ても、「もしか」が正しいと考え、敢
えて「もしか或る日」と歌つた。今後もこう歌つてゆ
きたい。



富士写ヶ岳に向かって祭壇を

久弥祭 献句紹介

久弥祭献句 はつしほ俳句会

| | |
|------------------|-------|
| 咲き初めしヒマラヤ椿久弥の忌 | 駒形 隼男 |
| 春光の山駆け巡る九山忌 | 小林 牧羊 |
| 忌の墓苑いづこに立つもあたたかし | 西田さい雪 |
| 登山靴もの言ひたげに遺されし | 高堂智恵子 |
| 師を讃ふ百の名山笑ひ初め | 荻 聖樹 |
| （九山忌に読まれた句です） | |

「ふるさとの山はいいなあ」と、盤に刻まれ
た久弥さんの顔が笑っているように思えた。
久弥のえにしに繋がる人達と、やさしく語
りかけてくれた花たちとの富士写ヶ岳登山
は、忘れない想い出となり、元気に山歩き
出来る幸せを胸いっぱいに感じる一日であつ
た。

朝の光の中、簡素な中にも心のこもった久
弥祭が執り行われ、静かな山あいに久弥著作
の朗読や山の歌声が響いた。
私は山の文化館パーティーの一員に加えて
もらい山頂をめざす。
富士写ヶ岳は花の山である。五彩尾根は咲
き競う可憐で美しい花たちに彩られていた。
富士写ヶ岳といえば石楠花ばかりを描いてい
た私には新鮮な発見でもあった。
可愛い妖精たちが舞うようなイワウチワの
淡いピンクの花の大群生は疲れを癒してくれ
る。真っ白なタムシバの花も新緑の中に映え
て美しい。山頂付近の石楠花は、ほころびは
じめた蕾が柔らかい春の陽射しを浴びて、ま
さに躍動しようとする息吹に満ち溢れている
ようです。

山頂は大勢の登山者で賑わっていた。

昨年の夏に皆んなで助け合って出来上がつ
た方位盤を包むように純白の白山が遠くにた
なびいている。

「ふるさとの山はいいなあ」と、盤に刻まれ
た久弥さんの顔が笑っているように思えた。
久弥のえにしに繋がる人達と、やさしく語
りかけてくれた花たちとの富士写ヶ岳登山
は、忘れない想い出となり、元気に山歩き
出来る幸せを胸いっぱいに感じる一日であつ
た。

久弥祭に参加して

深田久弥ゆかりの地 ～片野海岸～

『日本百名山』その「白山」の冒頭に「私のふるさとの山は白山であつた…泳ぎに行く海岸の砂丘からも…見えた」と記されている海岸が片野町の海岸です。

久弥さんは大聖寺学生会のメンバーと、親しい友人と、家族・親族達とたびたび片野海岸を訪れ楽しんでいました。片野海岸は久弥さんのお気に入りの場所だったと思っています。当時は、大聖寺から峠を越え、鳴池の脇と片野町を抜け、砂丘を超える片道約6kmの道程を経て片野海岸に向かつていきました。



現在の片野海岸貝浜



貝浜にある滝

白山開山千三百年によせて ふるさとの山「白山」展

七月八日（土）～九月十八日（月）
深田久弥山の文化館 聽山房にて

《本浜（ほんばま）》を指しますが一〇〇年以前は本浜から五〇〇m程度北にある《貝浜（かいばま）》が海水浴場の中心でした。ここはアワビ・サザエ等の貝類がたくさん生息しています。久弥さんたちも貝類を収穫して食していたのではないでしょうか。昔は単に泳ぐことより貝類を探り、食べるという海水浴が主流だつたらしいです。

現在も貝浜はあります。本浜脇の駐車場より崖沿いの階段を上り林道を歩けばふいに貝

場浜に降りる階段が現れます。粗目の砂や砂鉄の浮き上がった場所も久弥さんが遊んだ幼少時代から何も変わっていないと思われます。貝浜の奥には崖の上から小さな滝も流れています。昔の人はこの滝で塩気を洗い流しました後に帰路に向かつていたそうです。

余談ですが、幼少時代の久弥さんたちは帰路、片野町の親戚に立ち寄り砂糖を舐めたり、キユウリを食べながら帰ったと言われています。（T・M）

聞こへ会予定

七月二十二日（日）

演題 「雲と天気予報」

講師 中江 実氏

十月十五日（日）

演題 「深田先生あれこれ」

講師 宗實 慶子氏

読書会のお誘い

深田久弥さんは、登山家でもあり作家でもありました。その有名な『日本百名山』の中から、また他の著書の中から一つを取り上げて、皆で読書会を開きたいと思っております。山好きの方、おしゃべり好きな方、久弥さんに親しみたい方、是非お集まりください。

第一回の予定

日 時 八月二十二日（火）

午後一時三〇分～三時まで

場 所 山の文化館 聽山房

連絡先 深田久弥山の文化館

会員登録

* 詳細はホームページをご覧下さい

北陸地方もやつと梅雨入りしました。不順な日が続いているますが体調に気を付けて、登山・ハイキングなどでリフレッシュしてください。
山文便りも二年目を迎えます。楽しみにしていただけます。

N・Y

深田久弥山の文化館ホームページ

<http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>